

安心とつるおのり下町「川の手」をめぐって



防災 まちづくり 瓦版

第七号

発行の寺言問の防災まちづくりを考えるわいわい会

昭和61年9月1日

毎日が防災の日 一人ひとりが防災人

瓦版編集局員が防災関係機関をマラソン取材

瓦版編集局員 若木菊枝



今日九月一日は防災の日。あの関東大地震からちょうど六十二年たちました。ご承知のように、私達のまちは決して地震に強いまちではありません。いつ来てもおかしくない大地震。日頃の心構えとして何をなすべきか。先日、私は瓦版の編集局員として、防災関係機関をマラソン取材してきました。

住民一人ひとりが消防官 自分の家から火を出すな

最初に訪問したのが消防署。応対してくれたのは、本所消防署警防課防災指導担当係長の飯田清四郎さん。私達わいわい会では現在、災害に強いまちに向けて計画づくりに取り組んでいると話したところ、「大変良いことです。でもどんなに道が広くなり、建物が不燃化されても、住民の一人ひとりが

火をまず消すという心構えを持つていなければ、大災害には打ち勝てません。大地震になったら、同時多発的に火災が発生します。私どもは全力をあげて消防活動等に取り組みますが、大地震に発生する全ての火災に対応するには、物理的な限界があります。逃げるよりも、まず自分の家の火に気をつけて、ご近所で発生したばやを初期消火することが大切です。関東大地震で神田佐久間町が焼け残ったのは、住民が逃げずに、自分達の手で隣のまちから来る火をくい止めたからです。ところであなたは消火器の使い方を知っていますか。

「ドキッ。実は私、消火器の使い方を知らないのです。防災訓練に参加しなければ、と思いました。飯田さんからは随分目の痛い話を聞きました。その中で最も痛

かったのが、次の話でした。「大地震なんて来やしない。来ても絶対自分のところは大丈夫なはずだと思つのを、正常化の偏見といえます。それをなくさなくてはなりませんよ。」

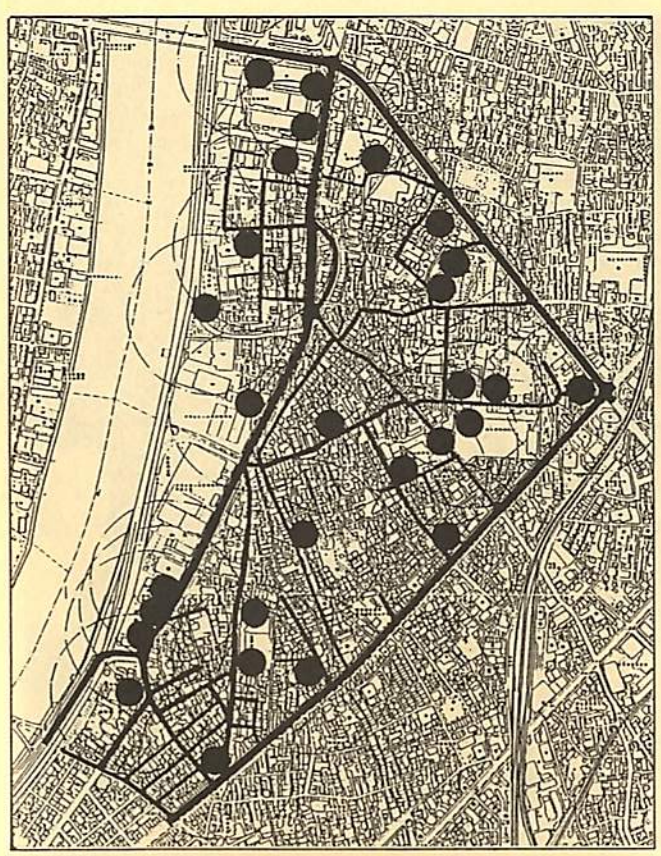
小学校を防災活動拠点に 自主防災——防災区画計画

自主防災に目覚めはじめた私は、次に墨田区の防災課に訪れました。そこでは、防災係長の門脇誠さんが区の防災態勢について丁寧に説明してくれました。「墨田区では、防災区画化計画をすすめています。区内全域を不燃建築物や河川などの延焼遮断帯で分割した二十五の区画をつくり、各区画の中の小学校等の周辺を不燃化して地域防災活動の拠点にするとともに、区画内の防災態勢の整備と強化を図ろうとする計画です。一寺言問地区の防災まちづくりもこの防災区画化計画の一環としてすすめているのですよ。」

「万ーの場合に備えて、水を一、三日分、食糧を一人三食分、常時備蓄しています。」門脇さんの話を聞いて、さすが墨田区の防災態勢はしっかりしていると思いました。同時に私達自身の手で災害を乗り越えねばならない、一人ひとりが微力でも力を集め、災害に対応しなければならぬと感じました。

三世代住宅を不燃化すれば 区から百万円を助成

次に不燃促進課に足を運びました。私自身が三世代同居の家族なので、この九月からスタートする「不燃化三世代住宅助成制度」について、担当の渡辺美菜子さんに伺いました。「この制度は、不燃化して建て替えることを前提に、いくつもの条件を満たした建てる主に、百万円を助成して下さるこのことです。同居により多くの問題を抱え、二心可塑性を持つ私達主婦にとって、充分に見直す必要のある金額ではないでしょうか。」

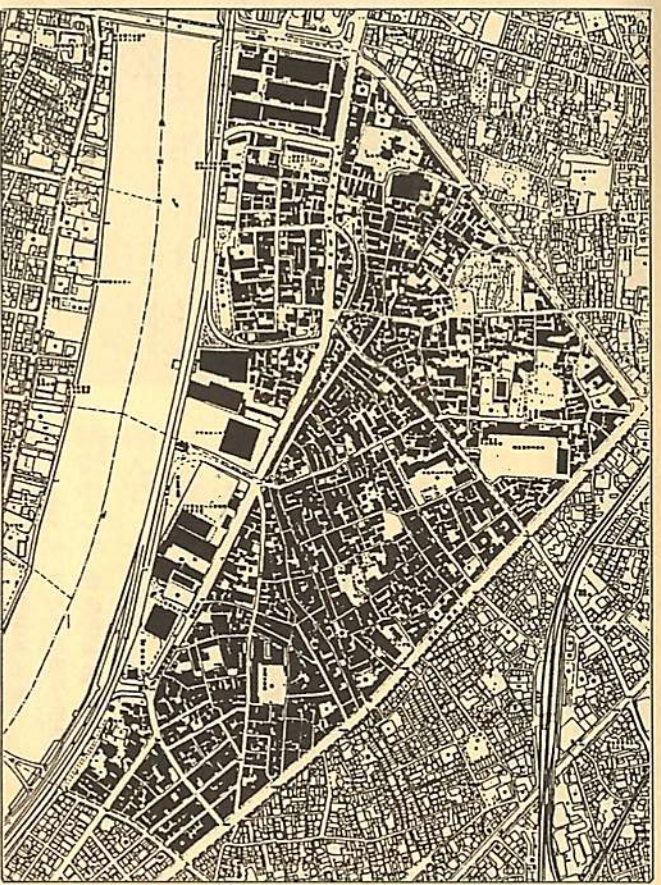


「なお、この制度は今まで不燃化助成の対象になっていた地域（一寺言問地区ですと、水戸街道、明治通り、墨堤通り、墨中通り沿いの三〇〇m以内と、一寺小と言問小周辺の三〇〇m以内）以外にも、三世代が同居する住宅ならば、不燃化助成してくれる全区適用の制度だそうです。」

ケーブル火災対策を、今全国的に進めています。

その後、N.T.T. 東京ガス、東京電力といった防災に関係のある民間会社にも取材に廻りました。三社とも中核的なコントロールセンターは、災害時には絶対の安全性が保たれているとの説明でした。まずN.T.T. 向島電報電話局の近藤英真総務課長さんに話を伺いました。

「局の建物は関東大地震級以上の地震でも十分に安全ですから、局内の交換機も安全。従って大災



(右) 消火活動条件図
消防車がはいる道路と消防水利がある位置、そこからおよそホースが届く距離(約140m)を示しました。

(上) 空地分布図
建物の部分を黒く塗りつぶした図、建物が密集している様子がよくわかります。

(左) 不燃化建築分布図
木造ではない建物の分布状況を示しました。

害時にも、ケーブルさえ故障にならないければ通話は可能です。」
「ちょっと安心したところで、以前あった世田谷のケーブル火災について質問したところ、

「二度とあのような事故のないように、電話線に不燃材を巻くなどの措置を全国的に進めています。」
長崎の水害時に電話のニックが起り、不通になったことにも触れてみました。

「一度に同じ所に電話が集中するとかかりにくくなりますが、そこから外にかけられる場合は大丈夫です。」

「各家庭では、浸水などの危険性がある場合は、電話機を高い所に移動して下さい。水に浸かると故障して通話不能になります。」と、私の質問に答えて下さる近藤さん。

「防災」この二字は、忙しく生活する私達にとって忘れがちですが、忘れてはいけないという認識が、し、かりと私の中に生まれてきました。



「地震の時に、都市ガスは果たして安全でしょうか」
そこで次なる訪問先は東京ガス、深川営業所の須藤幸雄副所長さんを訪ね、地震時におけるガスの安全について話を伺いました。

「地震は一般的には地層によっ

て揺れが違いますので、当社では全区域をいくつかのブロックに分け、各ブロックの震度を供給のコントロールセンターが細かく探知し、必要に応じて地域のカスを遮断する仕組みになっています。またカスの製造は主に神奈川県根岸工場と千葉県袖ヶ浦工場から天然ガスを送り出していますが、地震に対する対策も現代の最新技術を導入してつくられていますので、安全であると考えています。」

「各家庭ではガスの供給が遮断されましても残ったガスが出ますので、地震の時は使用中の火を消してガスの元栓を締める習慣が必ずと思われれます。また当社では万一の場合を考え、震度五以上の揺れの場合に自動的にマイコンが反応し、メーターでガスを遮断する装置の取り付けをおすすめしています。」

地震の時は、あわてず、冷静に対応してください。

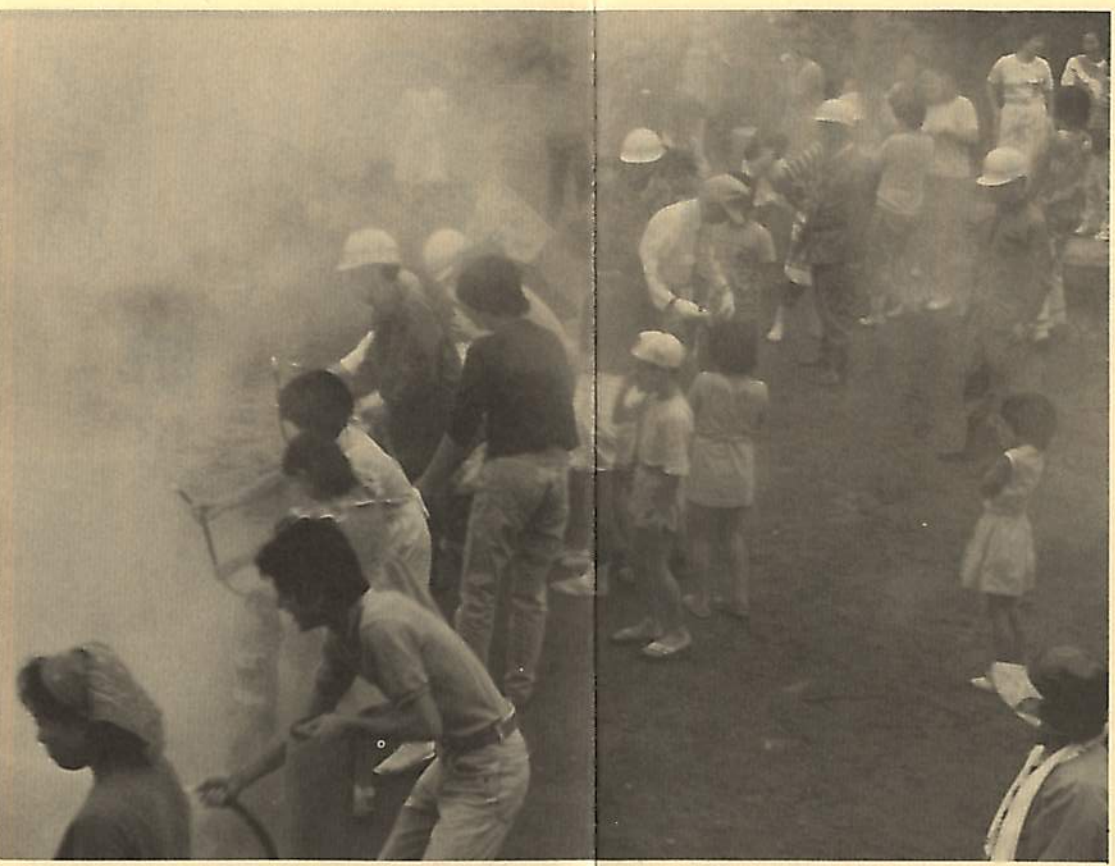
最後の訪問先は、東京電力、江東支社の営業課地域サービス係、吉田広係長さんに伺いました。

「電気は、電柱や変電所などに安全装置が付いており、地震が発生しても、交差点の信号が止まったり、公共機関の情報通信機能が不能にならないよう、設備に異状がなければ、送り続けます。」

「地震の時はあわてず冷静に、避難の際はエレベーターを切ってから家を出して下さい。それから台風や地震で障害物等で切れた電線を見つけたら、絶対に触らないで、東京電力へ連絡して下さい。」

東京電力では、電気に馴染みの薄い奥さん方を中心に電気教室や料理教室を開きながら、電気の正しい使い方の勉強会の開催や、地域のお祭りの紹介など広報活動にも積極的に取り組んでいるという話を伺いました。防災には直接関係ありませんが、私達互版編集高も学ばせていただく点が多くあり、大変参考になりました。

私のマラソン取材はこれで終了。皆さんには、この取材内容がうまく伝わり、たかしら。毎日が防災の日。一人ひとりが防災人。災害は忘れたころにやってくる。



とつと

防災



- オリエンテーリング(一時)
- 苗木無料引換券配布(一時)
- 応急救護訓練実演等(二時)
- ジャズ・コンサート(六時)
- 防災展示会(一時～六時)



一言祭実行委員会の役員(敬称略)

実行委員長 則武勝南(東武東上線三軒明神駅)
 副実行委員長 嶋崎昌二(向島線向島駅)
 委員長 志摩尚(東武東上線)
 村岡 薫(東武東上線)
 増田年茂(向島線)
 星野孝吉(提通三軒明神)
 事務局長 須賀 健(提通三軒明神)

本部 池 田 須賀 健(提通三軒明神)
 オリエンテーリング担当 佐藤 浩元(提通三軒明神)
 ステージ担当 外山 明(提通三軒明神)
 防災風示会担当 道田 成美(提通三軒明神)

決たる九月二十一日(日)午後一時から、東向島二丁目(ごも広場)地蔵坂通り・大宮湯跡(にて一寺言問を防災のまちにするまつり「一言祭」(ひとことまつり)が開催されます。主催は地元各団体等で構成する「一言祭実行委員会」と墨田区。このイベントを通して一寺言問のまちを再発見していただきたい、防災やまちづくりに関する意識を高めていただきたい、という思いから企画された一言祭は、まちなかオリエンテーリング、防災展示会、ジャズコンサート、苗木三百本無料配布や防災クイズ大会など、内容は盛りだくさん。子供から大人まで楽しめますから、みなさんお誘いあわせの上、いらして下さい。雨天時は二十三日(祝)に顺延します。

一寺言問地区内の防災施設をまちなかオリエンテーリング地図を頼りに、一寺言問地区の防災関係施設や歴史的諸施設などを指定されたポイント(十ヶ所)を捜し出し、その施設を解説したシートを集めてゆくゲーム。但し時間は争いけません。ゲーム終了後には、防災用品をはじめとした賞品が当たる抽選会もあります。参加対象は一寺言問地区在住の小学生以下(但し、小学生以下は、父母同伴の二名)

対策課緑化係(助墨田まちづくり公社、本所消防署、向島消防署、東京ガス(株)深川営業所、東京電力(株)東支社、日本電信電話(株)向島電報電話局、なお、いろいろな会では世話人等有志でおこなった「まちなか探検会」(8/8)の報告をする予定。

応急救護訓練実演/防災クイズ大会/干びっこ消防試着会

本所消防署、向島消防署の協力で午後二時からステージにて応急救護訓練の実演と婦人消防官による防災クイズ大会を行います。訓練参加者には苗木引換券、クイズ正解者には賞品をさしあげます。また会場入口にとめた消防車の前では三消防服を試着する「干びっこ消防隊試着会」を開催。

よしつね太鼓/ジャズコンサート/ペンキグラフィーマニス

ステージの夜の部(午後六時から)はコンサート。出演は地元小学生による「よしつね太鼓」とジャズバンド「ストリート・ジャム・ワークショップ」。ジャズは皆さんご存知の曲を演奏する予定。またステージ正面では、若手イラストレーターが一言祭開催中、「地震と防災」をテーマにイラストを書くペンキング・パフォーマンスをおこないます。お楽しみに。

問い合わせ先

一言祭実行委員会事務局
 墨田区都市整備部開発促進室内
 TEL(六二六)三二五一
 (内線六五五)
 担当 池田・村田

一言祭実行委員会参加協力団体

- 提通二丁目町会
- 東向島二丁目中町会
- 東向一南町会
- 東向島富元町会
- 向島五丁目西町会
- 向島五丁目東町会
- あすなろ子供会
- こぼこ子供会
- 杉の子子供会
- でんでん虫子供会
- 早起き子供会
- みどり子供会
- 向島五丁目東町会子供会
- ガールスカウト東京都墨田区
- 向島消防少年団
- 東向島三丁目消防隊
- 地蔵坂通り商店会
- 場の街通り商業会

マヌ都市建築研究所

一寺言問の防災まちづくりをすすめる「わいわい会」

まちなかオリエンテーリング 防災展示会 ジャズ・コンサート

一言祭

ひとことまつり

一寺言問を防災のまちにする祭

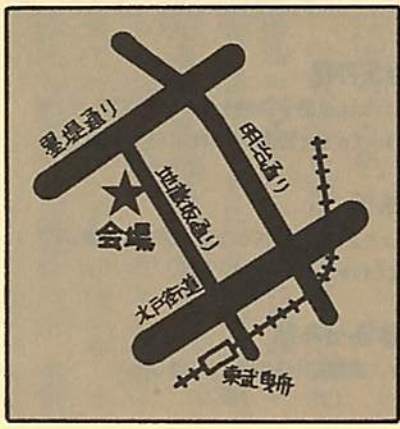
日一九八六年九月二十一日(日)

時 午後一時～八時

所 東向島二丁目(ごも広場)

(地蔵坂通り)

主催 一言祭実行委員会/墨田区
 後援 東京都/本所消防署/向島消防署
 協賛 NTT/東京ガス/東京電力





若い母親が大きな地図を囲んで話し合ったとき
にできた一寺言問のまちと防災に関する生の声

わいわい会の活動を始めて約十ヶ月。女性にもっとまちづくりに関する意見を聞いてみたい、わいわい会についてもっと良く知ってもらいたい、そんな思いから小さなお子さんを持つ主婦の方に呼びかけて、七月十八日「わいわい交歓会」を開催。大きな地図を囲んで、一寺言問のまちのこと、防災のことを、わいわいがやがや、「屋内フェール体育館の向こう側のガードレールの道が狭いのよ。」「ガードレールのない道路は、車が猛スピードで走って、子供にとってすごく危いわ。」「高速道路の下に素晴らしい公園がいくつもあるのに、あまり利用されていないのよな。」「あれ、どこ？」「ここよ、」と地図に問題の地点を記入しながら、わいわいがやがや。
一番心配な地震に話題が移り、「私、マンションに住んでいるんだけど、大地震が来たら外に出ないで室内にいた方が安全かしら。」「逃げるとしたら、いったいど

の道を通れば一番安全に避難場所まで行けると思う。」「
井戸端会議風な談話会の中にも毎日そこで暮らし、子供を育てている若い母親の生の声が聞こえてきた。同時に、二時間という短い時間ではあったが、防災は自分達の命にかかっている問題だという強い意識が生まれる気配を感じる有意義な集まりだった。(菊)

私がまっぴいんまっぴいんです

堀越三四 人見源一さん



定年退職後地域活動や趣味のサークル活動等で生き生きと過ごし、何だか人生設計の理想を實踐しているような人だ。
人に頼まれると断れない人柄で細い体ながらも一生懸命動いてくれる。だからといって人が良いだけではない。はっきりとした信念を持ち、押し付けでなく、自ら進んで実行している。そんな人だから、近隣の人々からの人望も厚い。堤通一丁目からた、た一人、世話人として頑張っているのも、そうした人望と、人見さん自身の積極性の所以だろう。

一寺言問地区を住み良くするために、ノーボイ運動(たばこの吸い殻を路上に捨てない)をすすめるなど、自立しないが、小さな積み重ねをしていく笑顔の素敵な人です。(里)

編集後記

〇昨年の九月一日に創刊して一年。互版はようやく第一版になりました。皆さまに愛される互版をつくろうと、産園に当初からのスタイルを守りながら、それでいて少しずつ紙面構成を変えながら発行してきました。でもただ美しく、それでいてまじめに、まちの情報をお届けしてきました。至らぬ点があったかと思いますが、今後よろしくお願いたします。

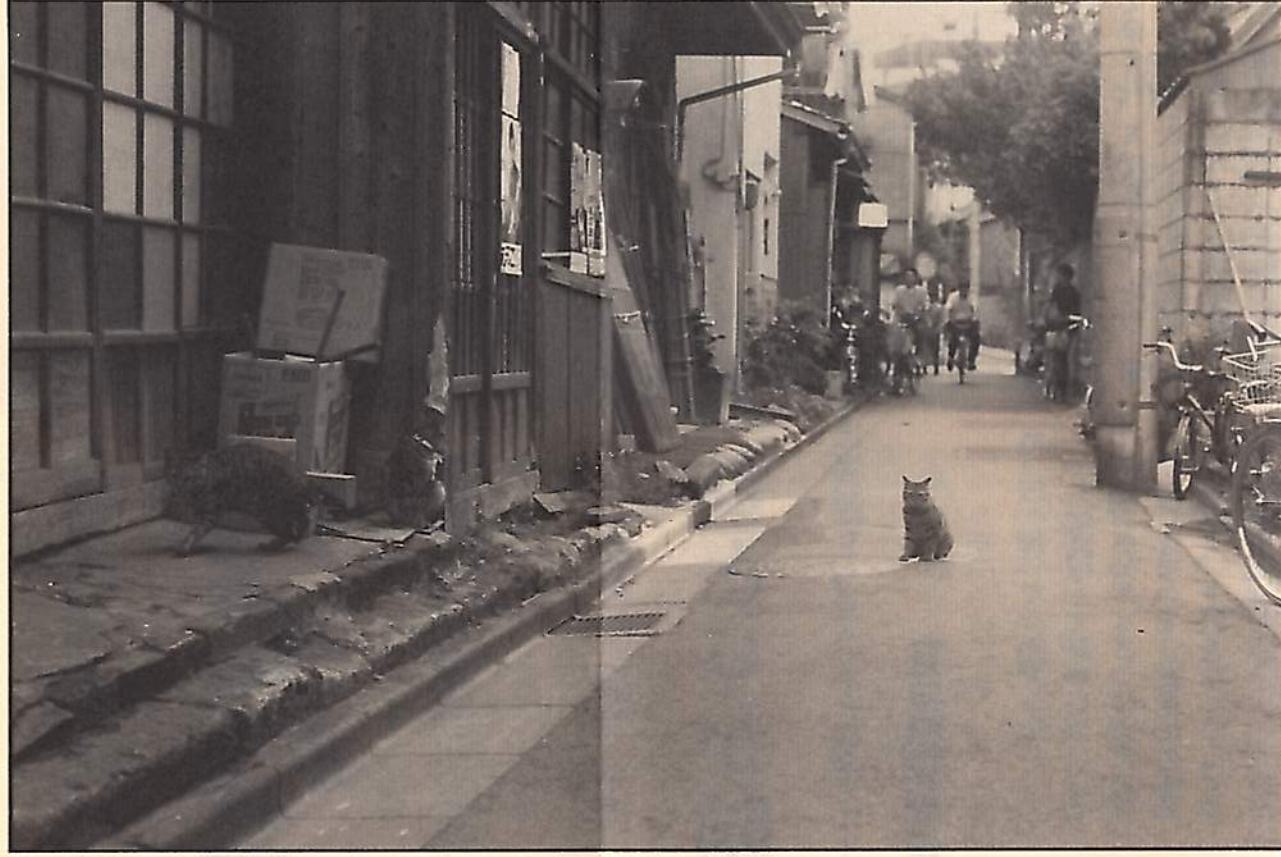
猫と老人が多いって本当!?

クイズです。下の写真の中にニャンコが何匹いますか?
一匹!? 残念でした、三匹です。えっ写真が悪いって!?
ウーン、スミマセン。

おニャン子クラブ、子猫物語と何かとニャンコがもてはやされる今日であります。一寺言問を歩くときもニャンコに出会います。一寺言問は猫にとって暮らしやすいまちなのではないでしょうか。

そういえば、ある人が「このまちは猫と老人が多い」といっていたのを思い出しました。猫と老人の相関関係はよくわかりませんが二年配の方が多いのは事実です。六年前の数字で見ると、六十五歳以上の人口が一寺言問の人口に占める割合は十二%。

まちを歩いてみますと、二年配の方には暮らしやすいまちだといふ印象を持ちます。でも昔に比べて若い人たちが少ないということについては寂しいですね。



一寺言問の防災まちづくり互版

第七号 昭和六十二年九月一日

わいわい会編集局 製作
山本俊哉 村田里美 若菜穂枝 池田美

産園区横橋二丁目八番一丁目
田原区新市瀬田町三丁目
(〒112-116) 三丁目一六五五(甲)